

教 育 研 究 業 績

氏名 福山 多江子

学位：家政学修士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
幼児教育学、言葉、実習	言葉の発達、幼児の行動（加減行為）、学生の実習について	
主要担当授業科目	教育課程総論、教育実習指導、児童文化	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
(1) 教育課程総論	平成 11 年 4 月～現 在に至る	東京成徳短期大学において 22 年間教育課程総論の科目を担当し、幼稚園教育の基本、歴史、教育課程、保育課程の違い、指導計画の立て方、その重要性を分かりやすく資料・パワーポイント DVD を用いて講義を続けている。
(2) 教育実習指導	令和 2 年 4 月～現在 に至る	東京成徳短期大学において 22 年間教育課程総論の科目を担当し、幼稚園教育の基本、歴史、教育課程、保育課程の違い、指導計画の立て方、その重要性を分かりやすく資料・パワーポイント、DVD を用いて講義を続けている。
(3) 保育者の言語表現	平成 27 年 4 月～令 和 2 年 3 月	東京成徳短期大学において、保育者の言語表現の科目を子どもの言葉の発達に合った保育者の言語の表現についてパワーポイント、DVD、プリントと資料を用いてわかりやすく講義を行った。
(4) 保育内容人間関係	平成 30 年 4 月～令 和元年 3 月	日本女子第 g 飼うにおいて保育内容人間関係の科目を担当し、子どもと保育者、子ども同士、保育者同士の人間関係を事例を交え、発達段階を考慮しながら人間歓迎について講義を行った。
(5) 子どもの文化と言葉	令和 2 年 4 月～令和 4 年 3 月	東京成徳短期大学において子どもの文化と言葉の科目において児童文化財の種類や活用方法および作成方法をわかりやすく説明し、文化財の重要性と使用方法によっては子どもにとって有効であることなどを講義した。
2 作成した教科書、教材		
(1) 保育実践事典	平成 28 年 3 月	児童文化財であるパネルシアター、エプロンシアター、ペーパーサートについて題材を選ぶ時のポイントや子どもに育つものについて発達段階別に分かり易く執筆した。第 1 章保育室、シアター。Pp：116～117（編集 幼少年研究所 鈴木出版）
(2) 幼稚園教育実習	平成 29 年 3 月	幼稚園の実習日誌の書き方、エピソード記録について実習日誌の重要性、実習日誌には何を記入するのか、考察とエピソード記録を事例を挙げながら詳しく執筆した。第 11 章実習日誌、第 1 節～第 3 節 pp：99～111（編著 谷田貝公昭・高橋弥生 一藝社）
(3) 幼稚園・小学校教育の理論と指導法	平成 30 年 2 月	平成 29 年に告示された新しい幼稚園教育要領・小学校学習要領に準拠し、幼稚園教育要領領域「健康」においてそのねらいと内容について小学校学習要領に照らし合わせ理解しやすく考察を加えながら解説をした。第 II 章 1pp：18～20（編著 生野金三・香田健治・湯川雅紀・高木史人 鼎書房）
(4) 教育・保育カリキュラム論	平成 31 年 4 月	指導計画の実際において異年齢児保育の意義、その保育の実施形態の種類、異年齢児保育の長所、課題、幼稚園における異年齢児保育の指導計画の立て方、その作成のまとめを実際の指導案を用いて分かり易く執筆した。第 11 章計画の実際④ 異年齢児保育 第 1 節～第 3 節 pp：202～221（編著 田中享胤・三宅茂雄）
(5) 「言葉を育てる」保育	令和 3 年 3 月	0～6 歳の子どもの言葉の力を育てるための言葉に関する疑問や困り、言葉遊びなどや、言葉の発達について分かり易く執筆した。

(6) 「豊かな環境をつくる」保育	令和5年2月	はじめに/第1章Q1-4、8、9、14、19、20、26、28、32、33、36/ 第2章11、12、13(編著 福山多江子、伊澤永修、大澤洋美、 生野金三 東洋館) 領域環境に関する疑問や困り、子どもの好奇心と探求心をくすぐる、環境構成のアイデアの一部を執筆し、子どものわくわくがあふれる充実した環境を作るためのアイデアを執筆した。(第1章17、27、第2章3 編著 大澤洋美 東洋館)
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 学生による授業アンケート	平成26年4月～ 令和3年3月	各教科において常に学生の評価が90ば銭とを超えるという高い授業評価を得ている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 東京成徳大学高等学校 (2) 短期大学認証評価委員	平成28年7月 令和4年4月～令和5年3月	教育実習指導について出前授業の講師を務めた。 全国短期大学認証評価委員を務めた。
5 その他 (1) 全国保育士試験監督	平成28年～令和4年3月	全国保育士試験「言葉」の試験監督業務を行った。
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許	昭和60年3月 昭和60年3月	幼稚園教諭1級免許(第409号) 小学校教諭1級免許(第1327号)
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) こどもの森保育園園内研修講師 (2) 埼玉県教員免許更新講習講師 (3) アンジェリカ保育園保育研修会講師 (4) 埼玉県教員免許更新講習講師 (5) 埼玉県教員免許更新講習講師 (6) 埼玉県教員新人採用研修講師	平成28年1月 平成28年7月 平成29年2月 平成29年7月 平成30年7月 令和元年6月	保育内容領域「言葉」の講義をパワーポイントと資料を用いて分かり易く行い分かり易くアドバイスを行った。 埼玉県私立幼稚園の教諭に必修「幼児を取り巻く環境と領域言葉」についてパワーポイントやDVD, 資料を用いて分かり易く講義し、アドバイスを行った。 近年の乳幼児に求められるもの、発達、子供が主体的に環境を通して遊ぶことが重要である音や適切な言葉かけについてパワーポイント、資料を用いて分かり易く講義し、アドバイスを行った。 埼玉県私立幼稚園の教諭に必修「現代の幼児を取り巻く環境と領域言葉」についてパワーポイントやDVD, 資料を用いて分かり易く講義し、アドバイスを行った。 埼玉県私立幼稚園の教諭に選択「指導要録の書き方」をパワーポイント、資料を用いて詳しく解説し記入の仕方のアドバイスをを行った。 埼玉県私立幼稚園協会所属の新人保育者に指導案の書き方をパワーポイント、資料を用いて詳しく解説し、指導案の書き方のアドバイスを行った。

(7) 埼玉県教員新人採用研修講師	令和元年 7月	埼玉県私立幼稚園協会所属の教員に、選択「新幼稚園教育要領と指導要録の書き方」についてパワーポイント、資料を用いて詳しく説明し、記入のし方を実践しながらアドバイスをを行った。
(8) あかいとり幼稚園園内県有講師	令和元年 7月	北区のあかいとり幼稚園にて園内研修、新しい教育要領と指導要録の書き方をパワーポイント、資料を用いて詳しく説明し、記入の仕方を実践を行いながら書き方のアドバイスをを行った。
(9) 埼玉県教員免許更新講習講師	令和2年1 月	埼玉県私立幼稚園協会所属の教員に、選択科目「新幼稚園教育要領と指導要録の書き方」についてパワーポイント、史郎を用いて詳しく説明し、記入の仕方を実践しながらアドバイスをを行った。
4 その他		なし

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 保育実践事典	共著	平成28年3月	幼 少 年 研 究 所・鈴木出版	児童文化財であるパネルシアター、エプロンシアター、ペープサートについて題材を選ぶ時のポイントや子どもに育つものについて発達段階別に分かり易く執筆した。第1章保育室、シアター。pp:116~117 福山多江子(編集 幼少年研究所鈴木出版)
2 幼稚園教育実習	共著	平成29年3月	一藝社	幼稚園の実習日誌の書き方、エピソード記録について実習日誌の重要性、実習日誌には何を記入するのか、考察とエピソード記録を事例を挙げながら詳しく執筆した。第11章実習日誌、第1節~第3節 pp:99~111 福山多江子(編著 谷田貝公昭・高橋弥生 一藝社)
3 幼稚園・小学校教育の理論と指導法	共著	平成30年2月	鼎書房	平成29年に告示された新しい幼稚園教育要領・小学校学習要領に準拠し、幼稚園教育要領領域「健康」においてそのねらいと内容について小学校学習要領に照らし合わせ理解しやすく考察を加えながら解説をした。第II章1pp:18~20 福山多江子(編著 生野金三・香田健治・湯川雅紀・高木史人 鼎書房)
4 教育・保育カリキュラム論	共著	平成31年4月	みらい	指導計画の実際において異年齢児保育の意義、その保育の実施形態の種類、異年齢児保育の長所、課題、幼稚園における異年齢児保育の指導計画の立て方、その作成のまとめを実際のまとめを実際の指導案を用いて分かり易く執筆した。第11章計画の実際④異年齢児保育第1節~第1節 pp:202~221 福山多江子(編著 田中享胤・三宅茂雄)
5 言葉を育てる保育	共著	令和3年3月	東洋館出版社	0~6 際の子どもの言葉の力を育てるための言葉に関する疑問や困り、言葉遊びなどや、言葉の発達について分かり易く執筆した。はじめに/第1章Q-4, 8, 9, 14, 19, 20, 26, 28, 32, 33, 36、/第2章11, 12, 13(編著 福山多江子・伊澤永修・大澤洋美・生野金三 東洋館)
6、「豊かな環境をつくる」保育	共著	令和5年2月	東洋館出版社	領域環境に関する疑問や困り、子どもの好奇心と探求心をくすぐる、環境構成のアイディアの一部を執筆し、子どものわくわくがあふれる充実した環境を作るためのアイディアを執筆した。(第1章17, 27, 第2章3 編著 大澤洋美 東洋館)
(学術論文)				
1 幼稚園における学校評価基準資料の観点に関する一考察	共著	平成29年3月	東京成徳短期大学紀要第50号 pp:, 53~65	幼稚園における第三者評価にかかる内容を新たに追加され、幼稚園における学校評価の特性により期待される取り組みと効果、学校関係者評価・情報提供のあり方に関する記述が盛り込まれたことにより、保育士や日々どのような取り組みの中で保育をどのように評価しているのかについて、効果等を合わせて考察した。(pp:61~64) 安見克夫、福山多江子、永井優美、木埜下大祐
2 実践的指導力の育成を志向して一	共著	平成29年	東京成徳短期	指導計画作成、模擬保育実践、保育の実践活動

保育観の形成を通してー		10月	大学紀要第 51 号 pp : 85~94	等を試みて受講者である学生の実践的指導力の育ちがいかに育成されたか、幼児の心がいかに変容したのか、その様相を探る研究を行った。(pp : 90~94) 福山多江子、生野金三、永井優美、大澤洋美
3 アクティブ・ラーニング研究ー学びに向かう活動を通してー	共著	平成 29 年 10 月	東京成徳短期 大学紀要第 51 号 pp : 95~104	子どもの能動的な遊びを導入した活動により、自立心、共同性、道徳性の芽生え、規範意識の芽生え、思考力の芽生え、自然とのかかわり、生命尊重、数量・図形・文字等への関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等の新庄、意欲、態度等の育成を志向し、実践を試み、環境構成と保育展開の方途を探る研究を行った。(pp : 99~101) 福山多江子、生野金三、香田健治、大澤洋美
4、子どもの加減行為についての一考察	共著	平成 31 年 3 月	東京成徳短期 大学紀要第 52 号 pp : 13~22	日々個々に出会う遊びの中で、その子の行為に着目し、どのようにして「加減」を経験し、学び取っているのかを目視と写真及びビデオで記録し、行為(行動的・情動的・言語的)の一部である、その子がモノを扱う時の身体的加減を分析することで自己性がどのように形成していくのかを事例を用いながら明らかにした。(pp : 18~21) 大澤洋美、安見克夫、福山多江子、永井優美
5、主体的・対話的で深い学びの研究ー幼稚園教諭養成課程における実践ー	共著	平成 31 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 52 号 pp : 35~49	「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は、子どもの学びの過程としては一体として実現される万尾であり、またそれぞれに相互に影響しあうものである。そのため、模擬授業を行うことにより授業改善を進めることが重要であるといえる。そのことを踏まえ、模擬保育の計画より模擬保育の実践、その振り返りを通して、教師に求められる子ども観、保育観、指導観等がいかに深まったかを探る研究を行った。(pp : 36~41) 福山多江子、生野金三、大澤洋美、香田健治、永井優美
6、教職実践演習の研究ー幼稚園教諭養成課程における実践例の分析と展開ー	共著	平成 31 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 52 号 pp : 51~62	教職に関する科目において、受講者である学生が模擬保育(部分指導案作成も含む)や模擬遠足等において、指導案を作成したり、幼児に関わったりし、その振り返りを通して、教員に求められる資質・能力(教材観、幼児観、指導観等の保育観)がいかに高まったかを学生のアンケートから研究を行った。(pp : 52~58) 福山多江子、生野金三、高木史人、香田健治、伊澤永修
7、アクティブ・ラーニングの研究ー学びの振り返りを通してー	共著	令和 2 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 53 号 pp : 11~27	アクティブ・ラーニングの本質を踏まえ、それを導入した授業、教職に関する科目で学生が学生を対象にした模擬保育・模擬授業においての学生の学びの振替入りを通して、学び手である学生の資質・能力の深まりの様相を学生の振り返りや実践をもとに研究をした。(pp : 19~23) 大澤洋美、生野金三、福山多江子、香田健治、伊澤永修
8、教員に求められる資質・能力の育成を志向してー指導計画(指導案)の作成を通してー	共著	令和 2 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 53 号 pp : 29~41	教職に関する科目において、受講者である学生が授業設計(指導計画)を作成し、模擬授業・模擬保育を試み、その授業記録を分析し、教員・保育士として必要な資質・能力がどのように高まったかを探った(pp : 33~41) 福山多江子、生野金三、大澤洋美、香田健治
9、幼稚園教育実習における学生の意識変化ー責任実習・教職実践演習における学びと課題ー	共著	令和 3 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 54 号 pp : 19~27	学生の責任実習後にアンケート調査を行い、参加・観察実習時と責任実習時の際の望む姿勢の変化、子ども観・保育観で変化した点、課題などを記述させ、その上で教職実践時の課題点、その授業を受講して社会人として保育者になるにあたっての意識の変化を分析し、不足している点は何かを考察する。その結果、実践的学びが不足していることが明らかになった。ロールプレイなどを活用しより現場に近い場を想定した演習が必要であるという結論に達した(pp : 19~26)。福山多江子、大澤洋美
10、子どもの加減行為における育ちの姿ー年齢による比較からの考察ー	共著	令和 3 年 3 月	東京成徳短期大 学紀要第 54 号 pp : 45~53	3 歳児と 4 歳児の加減行為の比較分析を行い、その加減行為そのものや獲得の過程を明らかにし、子どもの自己性の形成の要因と発達過程を明らかにし、幼児への理解を深める質的研究を行った。これにより子どもの失敗経験の重要であり、そこからそれぞれの限界を体感的に知ったり、成

				功するための範囲を学ぶことができることが明らかになった。(pp: 49~52) 大澤洋美、福山多江子、伊澤永修、安見克夫
(その他) (依頼原稿)				
1 幼児のことは保育者のことば	単著	平成 28 年 12 月	月刊国語教育研究No.536 (日本国語教育学会誌)	幼児の言葉・保育者の言葉において執筆者がアメリカに居住していた経験から子どもを預けたナーサリーにて幼児に対する保育者の対応を事例をあげて解説し、考察したことを執筆した。
2 幼保小の連携について	単著	平成 29 年 11 月	月刊国語教育研究No.547 (日本国語教育学会誌) pp: 10~11	日本国語教育学会全国大会においてシンポジストとして夏の大会に参加した際の、「深い学び」を実現する単元学習の開発ー幼児教育における環境・遊びを通しての学びと小学校連携について一を、幼児教育の立場から遊びを通して保育を行うことにより、言語能力も高められることについて解説し、執筆した。
3 幼児のことは保育者のことば	単著	平成 29 年 12 月	月刊国語教育研究No.548 (日本国語教育学会誌) pp: 56~57	幼児の言葉・保育者の言葉において新しい幼稚園教育要領の中にある幼児の学びに向かう力が保育者の言葉や環境設定により基礎ができ、重要であることを事例を通して解説した。
4. 幼児のことは保育者のことば	単著	平成 30 年 4 月	月刊国語教育研究No.552 (日本国語教育学会誌) pp: 56~57	幼児の言葉・保育者の言葉において幼稚園実習における学生の学びについて「幼稚園での給食の時間」の事例を用いて学生の振り返りを記入し、保育者が子どもの立場に立って考えていることを学び、その子どもたち一人一人のための目標を持つことで援助の仕方も変化させる必要があることを解説した。
5、幼児のことは保育者のことば	単著	平成 31 年 4 月	月刊国語教育研究No.564 (日本国語教育学会誌) pp: 56~57	幼児の言葉・保育者の言葉において幼児期における「主体的・対話的で深い学び」の姿とは幼児のどのような姿のことをいうのかを事例、「イチゴを発見して」を用いながらその学びについて解説した。
6、言葉遊びの実践	単著	令和元年 11 月	月刊国語教育研究No.571 (日本国語教育学会誌) pp: 42	日本国語教育学会全国大会においてシンポジストとして夏の大会に参加した際の、「言葉遊びの実践」において行ったことを解説し、言葉遊びの保育についての実践の記録を執筆した。
7、学校段階における国語教育について	単著	令和 2 年 2 月	月刊国語教育研究No.574 (日本国語教育学会誌) pp: 63	学校段階間における国語教育の課題のテーマで近年の乳幼児にとつての社会環境の課題として機械化が進み、子ども同士での言葉のやり取りが希薄化していることを上げ、どのような点を重視すればその問題点が解決できるかを編集後記として解説した。
8、幼児のことは保育者のことば	単著	令和 2 年 4 月	月刊国語教育研究No.576 (日本国語教育学会誌) pp: 56~57	幼児の言葉・保育者の言葉において現代における幼児期の言葉の環境と保育者ー幼児に対する対応から考えるーにおいて幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中の「言葉による伝え合い」を念頭に置き事例を用いながら解説した。
9、対話的な学びを育てる話すこと・聞くことの指導について	単著	令和 2 年 5 月	月刊国語教育研究No.577 (日本国語教育学会誌) pp: 62	対話的な学びを育てる「話すこと・聞くこと」の指導において編集後記の中で、園生活の中での読み書きは、遊びを中心として語彙を獲得していくことから始まることから、その土台になる物は話すこと、聞くことであることを解説した。
10、校種別活動報告	単著	令和 2 年 12 月	月刊国語研究No.584 (日本国語教育学会学会会報第 81 号) P、3	幼稚園・保育所部会の年間の垂 k つ同報告について執筆した。
11. 幼児のことは保育者のことば	単著	令和 3 年 4 月	月刊国語研究No.588 (日本国語教育学会学会誌) P、58~59	コロナ禍の中での子どもたちの学びと保育者の工夫について幼児に対する保育という視点から考察したことを執筆した。
12、読書生活を豊かにする単元学習編集後記	単著	令和 3 年 7 月	月刊国語研究No.591 (日本国語教育学会学会誌) P、63	これからの人生の読書生活をゆたかにするために幼児期に於いてどのように本を与えたら良いかを幼児の発達を鑑みて執筆を行った。
13、校種別活動報告	単著	令和 3 年 12 月	月刊国語研究No.596 (日本国語教	幼稚園・保育所部会の研究活動について報告を行った。

14、幼児のことは保育者のことば	単著	令和4年4月	育学会学会誌会報第82号) P、3月刊国語研究No.600 (日本国語教育学会学会誌) P、56~57	コロナ禍電学生生の幼稚園実習について保育者になるという熱意という学生に対して視点を向けて考察し、執筆した。
15、生涯読書人を育てる単元学習編集後記	単著	令和5年1月	月刊国語教育学会No.609 (日本国語教育学会学会誌) P、71	幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、生涯読書人を育てるためには、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を基盤として絵本に興味を持たせるような保育をしていく工夫が重要であることに関して執筆した。
〈学会発表〉				
1、学生の実習に対する意識と成果について(2)ー保育者の言葉かけの視点からー	—	平成28年5月	日本保育学会第69回大会東京学芸大学	学生の実習に対する意識と成果について保育者の言葉かけの視点から考察し、保育者の言葉によって学生の子どもに対する援助の仕方や言葉かけに大きな影響を与え、将来の保育者像にも影響を与えるという発表を行った。
2、豊かな言語生活を拓く国語教育の創造ー主体的・協働的な課題追究活動としての単元学習の開発ー		平成28年8月	日本国語教育学会第79回大会品川区立品川学園小学校	幼児の言葉の発達について司会兼指定討論者としてアドバイスをを行った。
3、幼児期の「しつけ言葉」の研究(1)ー保育者のしつけ意識の経年比較の考察ー		平成29年5月	日本保育学会第70回大会川崎医療福祉大学	幼児のしつけ言葉の経年比較の研究を行い、しつけをことわざなどに言い換え行うことは以前より減少し、死語になりつつある一方、現代の子どもが理解しやすいような言葉に変化しているものもあるという結果の発表を行った。
4、豊かな言語生活を拓く国語教育の創造ー「深い学び」を実現する単元学習の開発ー幼児教育における環境・遊びを通しての学びと小学校連携について		平成29年8月	日本国語教育学会全国大会・第80回記念大会文京区立窪町小学校	日本国語学会全国大会にて幼稚園・保育所部会のシンポジストとして幼児期の学びに向かう力について遊びを中心とした学びを事例を挙げながら詳しく解説し、小学校との連携を関連付けて発表を行った。
5、幼児の遊び「加減」の行為が育てる身体知の研究(2)		平成30年5月	日本保育学会第71回大会宮城学院女子大学	日本保育学会にて幼児の加減行為が身体知に対して及ぼす影響についてビデオカンファレンスを行い、研究をし、発表を行った。
6、保育者養成における指導計画作成に関するー考察ーアクティブ・ラーニングの形式の授業を通して		平成30年5月	日本保育学会第71回大会宮城学院女子大学	日本保育学会にて幼児の加減行為が身体知に対して及ぼす影響についてビデオカンファレンスを行い、研究をし、発表を行った。
7 豊かな言語生活を拓く国語教育の創造ー「主体的・対話的で深い学び」を実現する単元学習		平成30年8月	日本国語教育学会第81回大会品川区立品川学園小学校	日本国語教育学会の全国大会において保育園・幼稚園の保育者から乳幼児の言葉についての提案を受け、指定討論者として事例を挙げながら分かり易く解説した。
8、幼稚園実習における学生の意識変化ー実習前授業のあり方を考えるー		令和元年5月	日本保育学会第72回大会大妻女子大学	日本保育学会において実践的指導力の育成について学生のアンケートを基に研究したものを発表した。
9、豊かな言語生活を拓く国語教育の創造ー言葉による見方・考え方を働かせる単元学習ー		令和元年8月	日本国語教育学会第82回大会筑波大学附属小学校	日本国語教育学会において模擬授業の担当者として言葉遊びをパネルシアターを用いて楽しかった。また、大会副委員長として大会の運営を行った。
10、幼児の遊び「加減」の行為が育てる身体知の研究(4)ー3歳児の記録から見る加減行為ー		令和2年5月	日本保育学会第73回大会奈良教育大学	幼児の遊び「加減」の行為を3歳児と年齢を絞ってそのビデオを撮り、カンファレンスを行い、3歳児の特徴を探りその研究を行った。
11、幼稚園教育実習における学生の意識変化(2)ー責任実習における課題		令和2年5月	日本保育学会第73回大会奈良教育大学	幼稚園教育実習で責任実習における意識をアンケートにより集計し、その課題と問題点を研究した。
12、幼児期の遊び「加減」の行為が育てる身体知(実践知)の研究(5)ー5歳児の記録から見る加減行為ー		令和3年5月	日本保育学会第74回大会	幼児期の遊び「加減」の行為が育てる身体知を5歳児の記録から読み取り、研究、考察を行った。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。